

関東地方整備局同時発表

平成27年6月5日
道路局 国道・防災課

圏央道 久喜白岡JCT～境古河IC間の
整備によるストック効果※をお知らせします

～企業の物流や観光の効果に加え、身近な生活道路から大型車が減りました～

標記について、別紙のとおり発表されましたので、お知らせします。

なお、詳細につきましては、関東地方整備局、東日本高速道路株式会社の問い合わせ先におたずね願います。

※ストック効果：整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果

【問い合わせ先】

国土交通省 道路局 国道・防災課 企画専門官 四童子 隆
TEL：(03) 5253-8111 (内線37832)
直通 03-5253-8492 FAX：03-5253-1620

国土交通省関東地方整備局 北首都国道事務所 副所長 渡邊 稔
計画課長 北見 裕二
TEL：048-942-4041 (代表)

東日本高速道路株式会社【報道関係専用】関東支社広報課
TEL：048-631-0222



つながる。まわる。圏央道。
圏央道(久喜白岡JCT~境古河IC)が開通しました。



— 記者発表資料 —

国土交通省
東日本高速道路株式会社



今年3月に開通した
圏央道 久喜白岡JCT~境古河IC間の整備によるストック効果*をお知らせします。

~企業の物流や観光の効果に加え、身近な生活道路から大型車が減りました~

*ストック効果: 整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果

<主な効果>

- これまで高速道路の空白エリアだった茨城県西地域に、初めての高速道路(圏央道 約20km)が今年3月開通し、茨城県と東北道が直結しました。



圏央道(久喜白岡JCT~境古河IC) 約19.6km 3月29日 開通(境町から都心へは約114分→約87分に短縮)
(あわせて新4号バイパスを4車線化(国道4号春日部古河バイパス17.3km))

- 沿線の自動車産業などの輸送に時間短縮効果(企業活動を効率化)

埼玉県の桶川北本ICから茨城県の古河市内までの配送時間が約90分→約60分に短縮
(日野自動車(株):茨城県古河市)

- GWに「道の駅」(ごか)の利用者数・売上額が15%増加(昨年比)するなど、地域の観光・レジャー需要にも効果

道の駅ごかでは、GWの利用者数、売上額ともに昨年より約15%増加

周辺のゴルフ場では、圏央道開通による記念プランを実施(猿島カントリークラブ:茨城県坂東市)

- 抜け道に流入していた大型車が高速道路や新4号バイパスに転換するなどにより、生活道路の安全性向上の効果(生活道路の大型車交通量が半減)

県道西関宿栗橋線の大型車交通量 開通前1,600台/日→開通後800台/日 50%減少

さらに、6月7日(日)17時、圏央道(神崎~大栄)が開通します。

これにより、常磐道と東関東道が直結、圏央道全体の約8割が開通し、

- ・沿線に立地する物流施設などの利便性が高まり、企業活動をさらに支援
- ・北関東方面から成田国際空港へのアクセスが改善するなどの効果が見込まれます。

発表記者クラブ

国土交通省記者会 国土交通省建設専門紙記者会、国土交通省交通運輸記者会
埼玉県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会
千葉県政記者会、都庁記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、八王子記者クラブ
立川市政記者クラブ、青梅・西多摩記者クラブ、横浜市政記者会、横浜ラジオ・テレビ記者会、相模原記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 北首都国道事務所 TEL:048-942-4041 (代表)
副所長(地域広報官) 渡邊 稔 計画課長 北見 裕二
東日本高速道路株式会社 【報道関係専用】 関東支社広報課 TEL:048-631-0222

効果① 国際競争力と成長 ～民需の拡大～

- 圏央道の開通により、埼玉県の桶川北本ICから茨城県の古河市内までの配送時間が約90分→約60分に短縮したとの声。（日野自動車（株）：茨城県古河市）
- 次々とつながる圏央道の整備により、さらなる移動時間の短縮や物流の効率化が期待。

圏央道の利用により移動時間が短縮され、企業活動に貢献

沿線に立地する企業の声

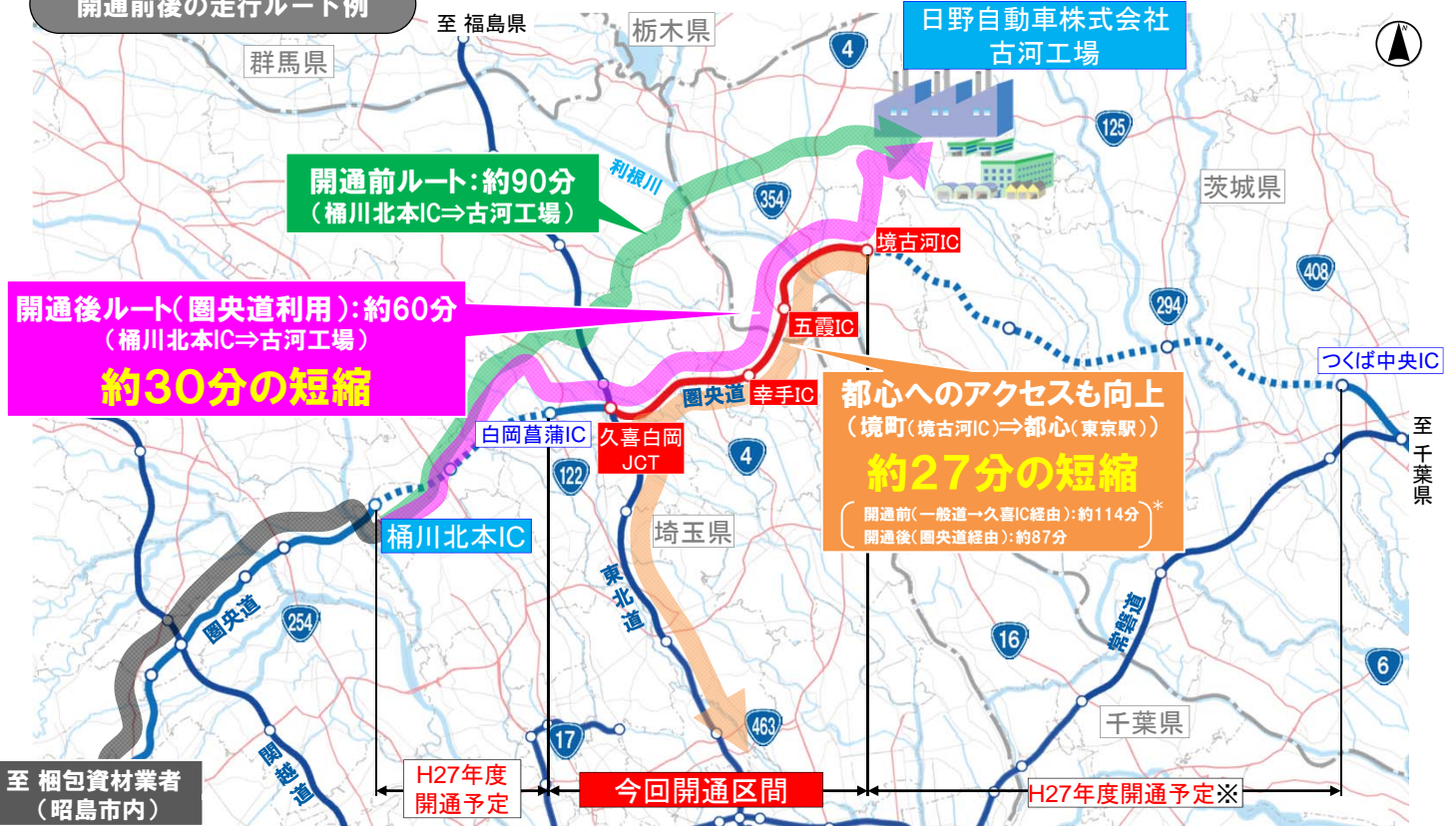
【茨城県古河市内：日野自動車株式会社】



- 当社と取引している昭島市の梱包資材業者では、古河工場で製造した部品用の梱包製品の**配送ルート**を圏央道利用に変更したことによって、**所要時間が30分程度短縮**したと聞いています。特に、**時間的制約や一般道が混雑している場合に圏央道を利用**しているようです。
- 圏央道（桶川北本IC～白岡菅蒲IC間）の開通後は、**時間短縮効果がより高まるため、さらに利用頻度が増える**と思います。

出典)平成27年5月 ヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)

開通前後の走行ルート例



出典)平成27年5月 ヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)

*の移動時間は、民間プローブデータ(H26年11月平日12時間平均)から算出、新規開通区間は規制速度から算出。

※区間の開通時期については、土地収用法に基づく手続きによる用地取得等が速やかに完了する場合

【茨城県古河市内：日野自動車株式会社】



- 埼玉・茨城間全線開通時には、**既存拠点との連絡の利便性が期待**できます。
- また、**新たな積出港(茨城港「常陸那珂港区」など)の利用も検討の相上り上がる可能性**が考えられます。

出典)平成27年3月 ヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)



効果② 地域経済の好循環 ～観光・レジャー需要の喚起～

- 道の駅ごかでは、GW(ゴールデンウィーク)の利用者数、売上額ともに昨年より約15%増加。
- また、GWに圏央道を利用された方からは、GWでも渋滞なく旅行できると実感。
- 圏央道の開通に伴い、沿線ゴルフ場の一部では、圏央道開通記念割引プランを実施。

圏央道の開通によるアクセス向上により、観光・レジャーの需要が喚起

沿線道の駅・一般利用者の声

圏央道開通により、GWでも渋滞なく旅行できると実感

● 毎年GWは、家族で日光に行きますが、渋滞や移動時間を考え、電車で行くこともありました。

● 今回、圏央道が開通し、**渋滞もなく、30～40分も時間短縮できたので**快適なドライブと良い旅行が出来ました。

● 自宅のあるつくばまでの開通が待ち遠しいです。

出典) 平成27年5月 道の駅「ごか」でのヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)

圏央道の開通や国道4号春日部古河バイパス(新4号バイパス)の4車線開通の効果も加わり、GWの利用者や売上額が増加

● 圏央道の開通や新4号バイパスの4車線開通の効果も加わり、**今年のGWの利用者数や売上額は、昨年より15%程度増加**しています。

● 今後、圏央道がつながることで五霞ICの利用が増え、(道の駅ごか)さらに**道の駅の利用者が増えることを期待**しています。

出典) 平成27年5月 ヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)

沿線ゴルフ場の声

周辺のゴルフ場へのアクセスが向上
 周辺のゴルフ場の一部ではWEB予約を対象に、圏央道開通記念割引プランを実施

【茨城県坂東市内:猿島カントリー倶楽部】

- 会員や同伴の方々から**圏央道が開通して便利になった**と聞いております。
- 昨年に比べて**会員権の販売の申し込みや問い合わせが増えています**。
- 今後、圏央道の埼玉・茨城区間が全線開通した際には、**沿線地域を対象とした営業展開も考えています**。

出典) 平成27年5月 ヒアリング調査 (北首都国道事務所調べ)

最寄りICからのアクセス時間が約50分短縮
 開通前:久喜ICから約60分
 開通後:境古河ICから約10分

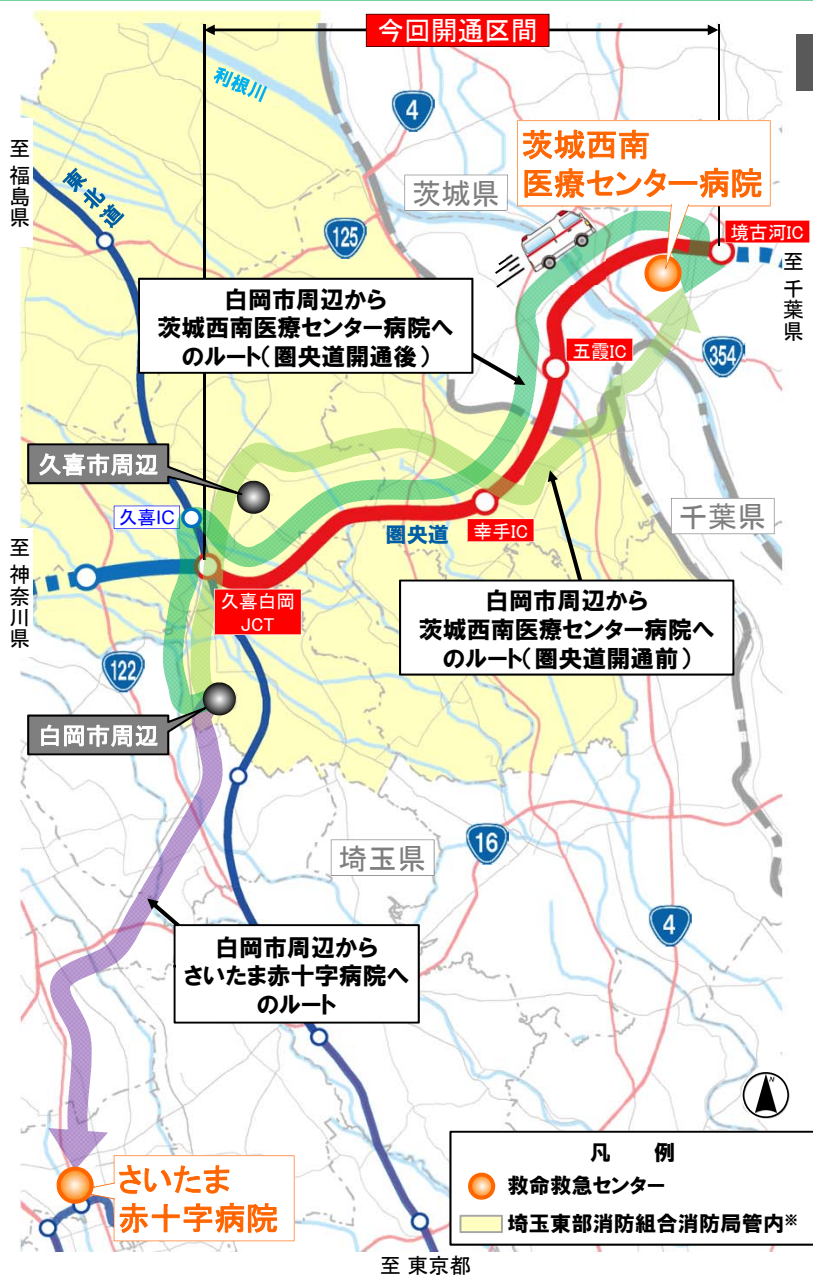
※区間の開通時期については、土地収用法に基づく手続きによる用地取得等が速やかに完了する場合は、H27年度開通予定※

効果③ 緊急・災害時の対応力強化 ～安全・安心の確保～

- 圏央道の開通により、久喜IC周辺から茨城西南医療センター病院までの搬送時間が10～15分ほど短縮。
- 埼玉東部消防組合消防局管内※では、埼玉県内への搬送先だけでなく、茨城県内にも搬送先の選択肢が広がっているとの声。

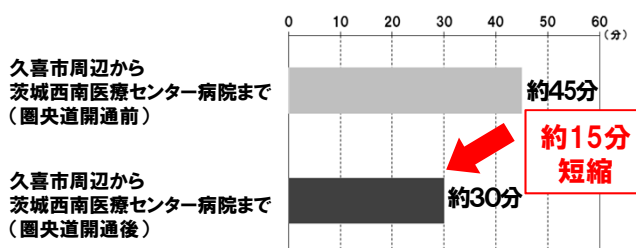
※加須市、久喜市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町（4市2町）

救命救急活動に貢献

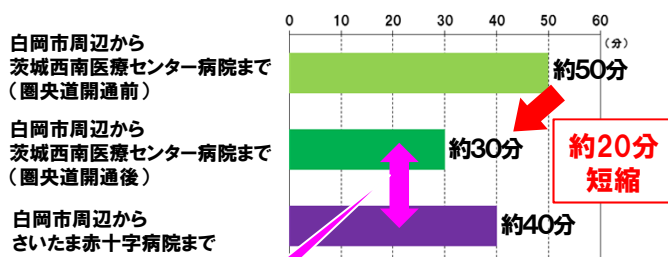


救命救急センターまでの所要時間の変化

【久喜市周辺から茨城西南医療センター病院までの所要時間の変化】



【白岡市周辺から各救命救急センターまでの所要時間の変化】



圏央道開通により救命救急センターまでの所要時間が改善
⇒救命救急センターの選択肢拡大

出典)平成27年5月 ヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)

埼玉東部消防組合消防局の声



- 東北道久喜IC周辺から茨城西南医療センター病院までの搬送では、**圏央道を利用することで、搬送時間が約10～15分ほど短縮されました。**
- 白岡市周辺からの緊急搬送の際、**埼玉県内の救急病院だけでなく、茨城県内への選択肢も広がっています。**
- 高速道路を利用する病院間の転院搬送では、一般道とは異なり、信号交差点の通過がないため、減速・加速による**患者への負担が小さく、とても有効**です。

出典)平成27年5月 ヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)

効果④ 地域交通状況の改善

● 周辺的一般道では、4車線で開通した国道4号春日部古河バイパス（新4号バイパス）や圏央道に大型車交通量が転換。

国道4号（利根川橋）の大型車交通量 : 12%減少

県道結城野田線（境大橋）の大型車交通量 : 15%減少

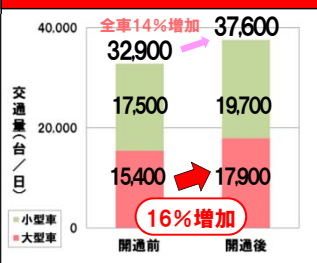
● 開通区間に並行する生活道路でも抜け道利用の大型車交通量が約50%減少。

周辺的一般道では、大型車交通量の減少により、地域の交通状況が改善

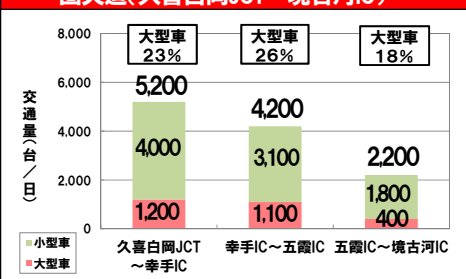
交通量の変化

一般道から新4号バイパスや圏央道に交通が転換(特に大型車)

新4号バイパス(新利根川橋)※1

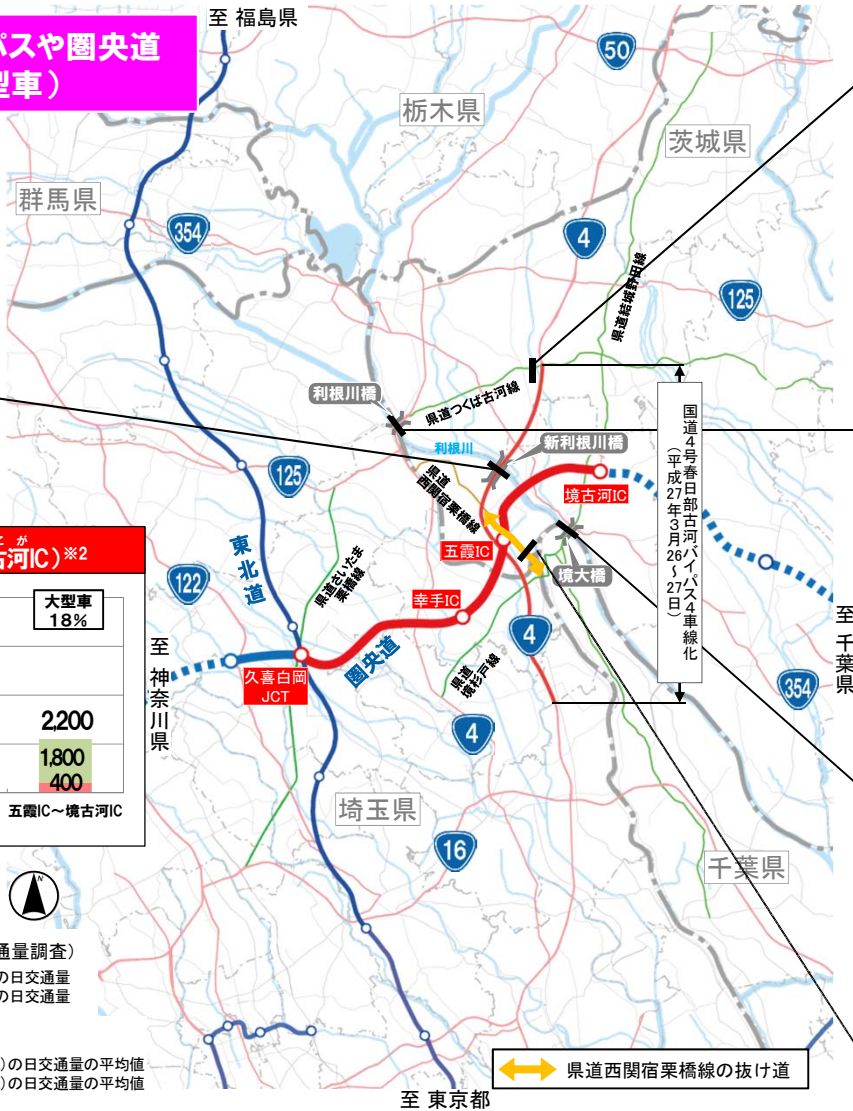


圏央道(久喜白岡JCT~境古河IC)※2

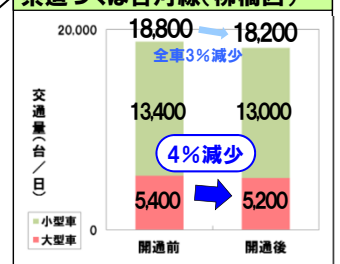


※1 出典) 国土交通省データ(交通量調査)
開通前: 平成26年11月19日(水)7時~翌7時の日交通量
開通後: 平成27年4月22日(水)7時~翌7時の日交通量

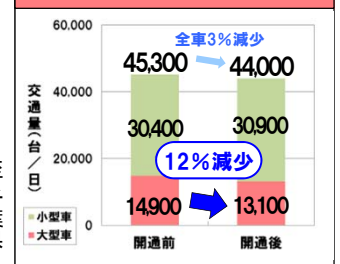
※2 出典) NEXCOデータ
開通前: 平成26年3月31日(月)~4月30日(水)の日交通量の平均値
開通後: 平成27年3月30日(月)~4月29日(水)の日交通量の平均値



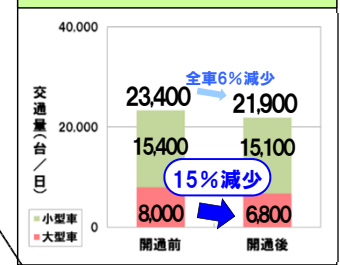
県道つくば古河線(柳橋西)※1



国道4号(利根川橋)※1



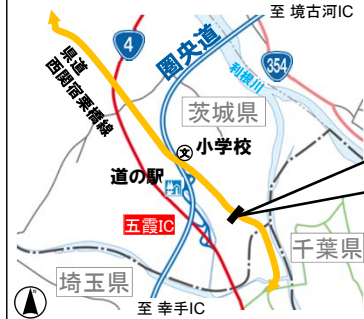
県道結城野田線(境大橋)※1



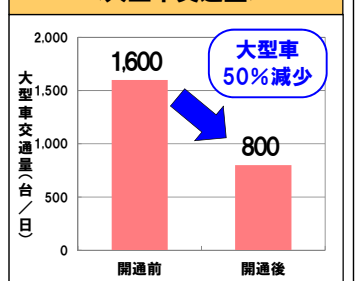
生活道路における大型車交通量の変化

■ 抜け道(一部通学路に指定)に流入していた大型車交通量が半減。生活道路の安全性が向上。

【県道西関宿栗橋線の交通状況の変化】



県道西関宿栗橋線※1
＜大型車交通量＞



【参考】開通後の交通状況

● 圏央道の開通1ヶ月後の日交通量は、平均2,200～5,200台/日。

圏央道（久喜白岡JCT～幸手IC間）：5,200台/日

圏央道（幸手IC～五霞IC間）：4,200台/日

圏央道（五霞IC～境古河IC間）：2,200台/日

● これまで開通していた白岡菫蒲IC～久喜白岡JCT間の交通量は、対前年同週比較で増加。東北道は対前年同週比較でやや減少。

圏央道（白岡菫蒲IC～久喜白岡JCT間）：6,700台/日→8,700台/日[30%増]

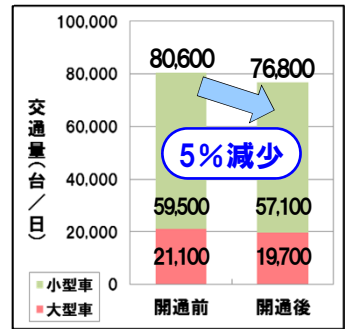
東北道（久喜IC～加須IC間）：80,600台/日→76,800台/日[5%減]

東北道（岩槻IC～蓮田スマートIC間）：90,800台/日→88,100台/日[3%減]

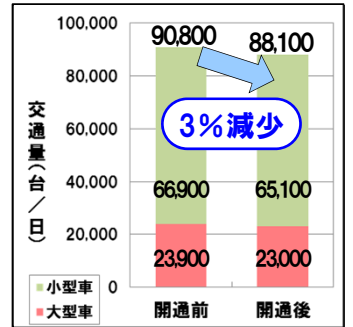


東北道(⑤, ⑥)

⑤久喜IC～加須IC(圏央道外側)

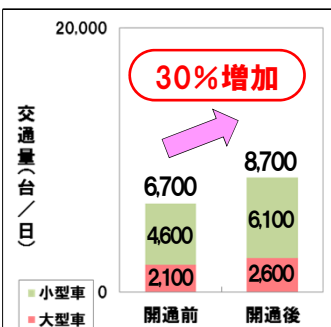


⑥岩槻IC～蓮田スマートIC(圏央道内側)

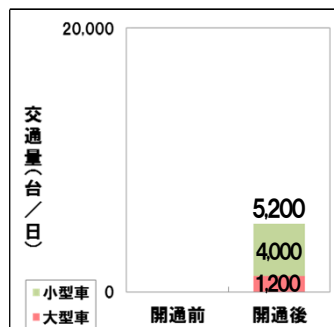


圏央道(①, ②, ③, ④)

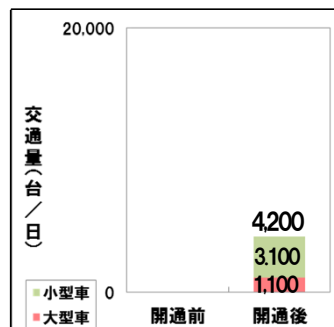
①白岡菫蒲IC～久喜白岡JCT (東北道以西)



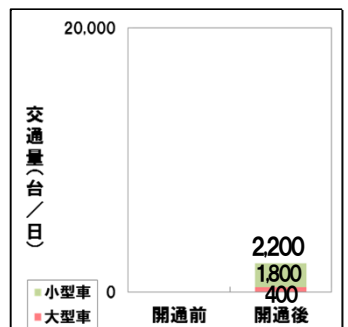
②久喜白岡JCT～幸手IC (東北道以東)



③幸手IC～五霞IC (東北道以東)



④五霞IC～境古河IC (東北道以東)



出典) NEXCOデータ

開通前：平成26年3月31日(月)～4月30日(水)の日交通量の平均値
開通後：平成27年3月30日(月)～4月29日(水)の日交通量の平均値

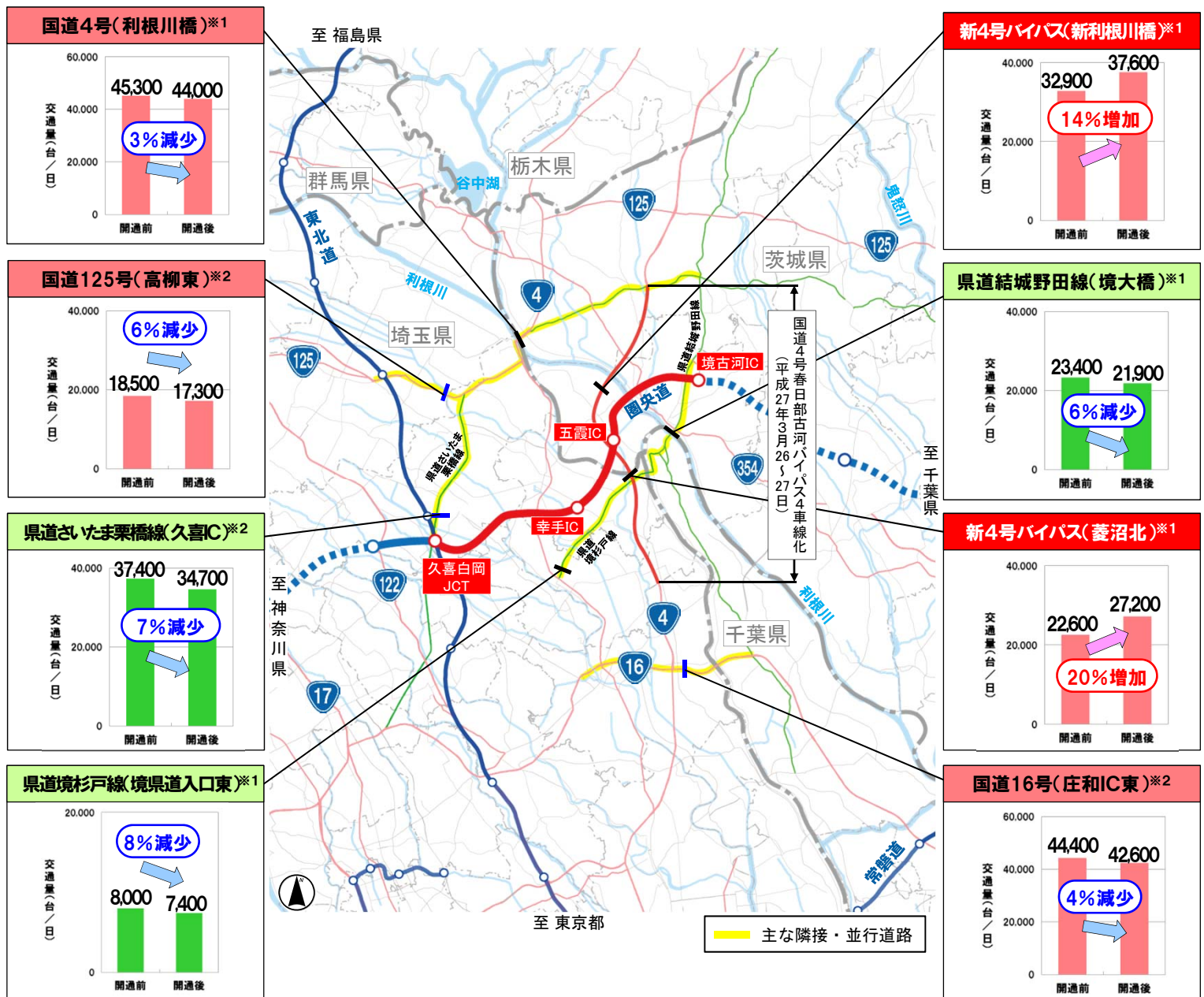
【参考】開通後の交通状況

- 開通区間(五霞IC)にアクセスする国道4号春日部古河バイパス(新4号バイパス)が4車線で開通しており、交通量が増加。

新4号バイパス(新利根川橋断面) : 32,900台/日→37,600台/日[14%増]
 新4号バイパス(菱沼北断面) : 22,600台/日→27,200台/日[20%増]

- 開通区間に隣接・並行する一般道では交通量が減少しており、開通区間等への転換が図られている。

県道境杉戸線(境県道入口東断面) : 8,000台/日→7,400台/日[8%減]
 県道さいたま栗橋線(久喜IC断面) : 37,400台/日→34,700台/日[7%減]
 県道結城野田線(境大橋断面) : 23,400台/日→21,900台/日[6%減]
 国道125号(高柳東断面) : 18,500台/日→17,300台/日[6%減]



※1 出典) 国土交通省データ(交通量調査)

開通前: 平成26年11月19日(水)7時～翌7時の日交通量
 開通後: 平成27年4月22日(水)7時～翌7時の日交通量

※2 出典) 埼玉県警トラカンデータ

開通前: 平成27年3月22日(日)～3月28日(土)の日交通量の平均値
 開通後: 平成27年3月30日(月)～4月29日(水)の日交通量の平均値

圏央道開通区間概要

● 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、首都圏の道路交通の円滑化・環境改善、沿線都市間の連絡強化等を目的とした都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。今回開通区間を含めて、現在までに約220kmが開通しています。

● 今回開通区間の概要

路線名：国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

開通区間：久喜白岡JCTくきししちはやみ（埼玉県久喜市下早見）～境古河ICさしまぐんさかいまちにししいずみだ（茨城県猿島郡境町西泉田）

開通日時：平成27年3月29日（日）15時

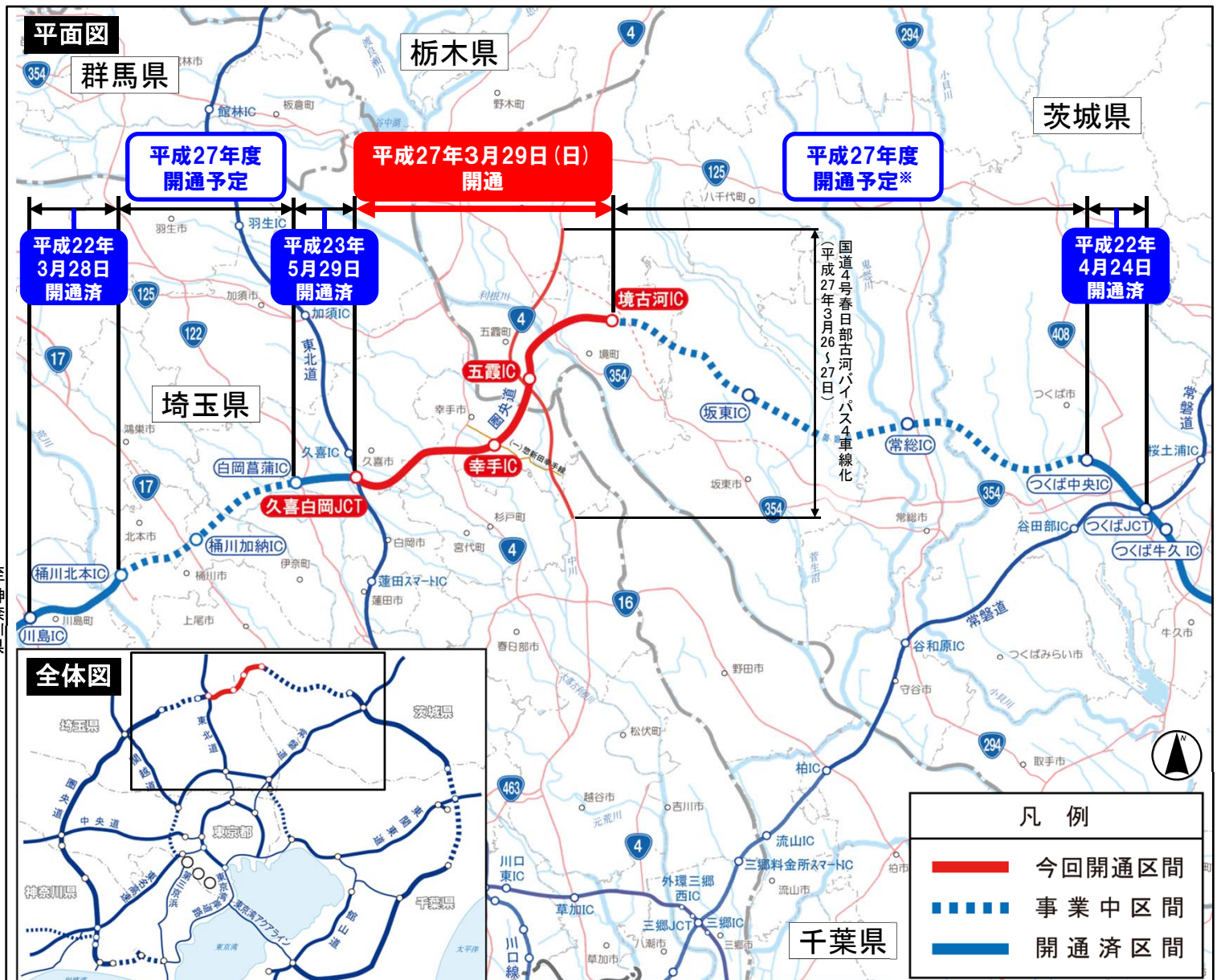
延長：19.6km

車線数：暫定2車線

開通IC：幸手ICさって、五霞ICごか、境古河ICさかいこが

アクセス道路：（一）惣新田幸手線、新4号バイパス、国道354号バイパス

■ 今回開通区間の位置図



※土地収用法に基づく手続きによる用地取得等が速やかに完了する場合